

中道を進みなさい

グルマーイ・チッドヴィラーサーナンダによる物語

昔々あるとき、ゴータマ・シッダールタは木の下に座って、なぜ厳格な苦行の成果を体験できないのかを考えていました。考えれば考えるほど、彼の中に失望感が生まれ始めました。なぜ何も得られないのか。いつになったらゴール（悟りを開くこと）にたどり着けるのだろうか。彼は、自分の努力に何の未来も見いだせませんでした。心の迷いが頂点に達したとき、森の中から鳴り響く声が聞こえました。彼はまっすぐ座って、全身で聞き耳を立てるように、注意深くその声に耳を傾けました。

彼が辺りを見まわすと、遠くの木立に旅の音楽家たちが座っているのに気づきました。一人の音楽家の師匠が大きな岩の上に座って、若い生徒たちに弦楽器の調律の仕方を教えていました。ゴータマ・シッダールタがじっと耳を傾けていると、師匠は教えました。「弦は締め過ぎると切れてしまい、緩め過ぎれば良い音が出ませんよ」

ゴータマ・シッダールタはこれを聞いた時、すぐにその言葉が彼のために意味するものであることに気づきました。その言葉は、苦行における彼の行き過ぎた努力に光を当てたのです。彼は、自分の身体をいじめ抜き、その限界を重んじようとはしてこなかったのです。何も得られないのも無理はありません！

ゴータマ・シッダールタは、この音楽家の師匠の教えから英知を引き出し、彼のサーダナーに当てはめました。彼は、身体はニルヴァーナに到達するための

楽器であることを理解しました。タンブーラの調律のように、精神修行において、人は中道を進むべきなのです。——締め付け過ぎたり、緩くし過ぎたり、厳しくし過ぎたり、甘くし過ぎたりしてはいけません。この英知が、ゴータマ・シッダールタがブッダになることへ導いた珠玉の一つでした。